

静岡
SHIZUOKA

開幕せまる『浜名湖立体花博(浜松モザイカルチャー世界博2009)』

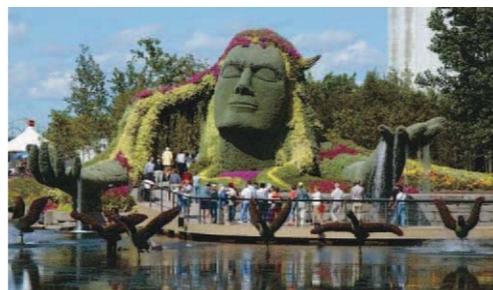
2009年秋、浜松市ではビッグイベントが目白押しとなっている。特に注目されているのが、9月19日から11月23日までの66日間、はままつフラワーパーク(浜松市西区舘山寺町)で開催される「浜名湖立体花博(浜松モザイカルチャー世界博2009)」である。

「モザイカルチャー」とは、19世紀のフランスで生まれた、絵画や彫刻などの芸術と、造園や園芸などの技術が融合した「花と緑の立体アート」のこと。デザインに基づき、金属のワイヤーメッシュ等で骨格を作り、シート(ネット)を張り、中に土を詰め、そこに生きた植物を植え込んで作ったものである。「モザイカルチャー」の魅力は、植物の成長に合わせて葉の色が変化したり、花が咲いたり、表情の変化を楽しめることにある。また、そのスケールの大きさや芸術性も十分楽しめるものとなっている。

会場には、世界中からスケールの大きい、芸術性の高いモザイカルチャー作品が87点展示される予定で、出展作品数は過去最高のものとなる。世界中から集まった素



作品「うなぎに驚くウナギイヌ」(はままつフラワーパーク設置)



作品「母なる地球の伝説」(03年世界博出展)

晴らしい作品が会場一面に展示された光景は壮観であり、また、歴史や文化といった各国独自の魅力を感じることができる。

開催期間中には、各国出展都市の紹介イベントやステージイベント、物産展、さらには、「越中おわら風の盆」、「世界押し花絵芸術祭」、世界チャンピオン・城所ケイジ「チェンソーカービングショー」など、多彩なイベントの開催も予定されている。また、夜間開園時には、モザイカルチャーのライトアップやイルミネーションなど、幻想的な演出も考えられており、昼間とはまた違う雰囲気を楽しめるものとなっている。

開催地である浜松市は、ガーベラ、フリージャー、菊といった花き栽培が盛んであり、市民の間でも「花と緑のまちづくり」への取り組みが広く浸透しているため、街にも花が溢れている。また、浜名湖うなぎ、浜松ぎょうぎ、遠州焼と多くのグルメを堪能できるなど、観光スポットとしての魅力にも事欠かない。この浜松市で開催される浜名湖立体花博に今、多くの期待が寄せられている。

神奈川
KANAGAWA

ベイエリアに「新名所」続々 横浜開港150周年に彩り添える

横浜市のベイエリアに「新名所」が続々誕生し、開港150周年に彩りを添えている。6月2日(開港記念日)に開園した「象の鼻パーク」は、かつてイギリス波止場と呼ばれた横浜港発祥の地。これに先立って「横浜マリントワー」や「日本丸メモリアルパーク」も3月から5月にかけてリニューアルされ、新たな観光スポットに生まれ変わった。

象の鼻パークは、愛称の由来となった土木遺産「象の鼻防波堤」を中心に、明治期の鉄軌道や転車台の残る「開港波止場」、芝生の張られた「開港の丘」などで構成される。総面積は約3.3ヘクタール。開港波止場に並べられた64枚のスクリーンパネルは、内部照明で3色に変化し、夜の港に幻想的な雰囲気を醸し出す。

同パークにほど近い横浜マリントワーは、開港100周年事業の一環として地元企業などが出資し、1961年に開業。延べ約2,500万人を集客したが、入場者の減少などに伴い2006年に営業を終了した。新たに市が事業主体となって抜本的なリニューアルを行い、銀色(従来は赤と白)の外観で5月23日に再オープンした。

同じく100周年事業として61年、山下公園前に係留された貨客船「氷川丸」(11,622トン)は、1年半弱の改修期間を経て一足早く昨年4月から営業を再開した。同船は30年、シアトル航路に就航し、戦時中は病院船、戦後は帰国者の引き揚げ船として使われるなど数奇な運命をた



内部照明で3色に変化するスクリーンパネルが並べられた「象の鼻パーク」

どった。建造した日本郵船が、「歴史博物館」としての位置づけで維持・公開している。

みなとみらい21地区の玄関口にある日本丸メモリアルパークも、生まれ変わった。中心施設の「帆船日本丸」は、商船学校の練習船だった時代の展示や船内の解説を充実させて3月31日にリニューアルオープン。併設の横浜マリタイムミュージアムは「横浜みなと博物館」と改称し、展示内容を一新して4月24日に開館した。

08年に同市を訪れた観光客は、前年より約3.6%増えて過去最高の4,253万人を記録した。09年は「開国博Y150」をはじめ、官民主催の開港150周年関連イベントが相次ぐことから、市当局は「5,000万人の大台乗せを目指す」と意気込む。「新名所」の相次ぐ誕生も、強気の読み背景になっている。

